地域・保護者の皆さまへ

先生になりたい人が減っています
働き方改革にご理解とご協力を！

教員が子どもたちの前で生き生きと働き、
子どもたちの教育環境を充実させるために

長時間勤務が大きな課題

- 年間360時間を超える教員
  ・・・44%（管理職は72%）
- 月80時間を超える教員
  ・・・306人（過労死ラインの目安）

学校行事の見直し

これまで続けてきた行事であっても、見直すことがあります

欠席連絡等アプリ

紙による通知を減らし、教員と保護者、双方の負担軽減を図ります

時間外の電話対応

勤務時間外は、音声応答装置による対応としています

学校閉庁日の取組

夏休みなどに、学校園に勤務しない日を設けています

部活動における取組

部活動指導員を配置し、休養日等を設定しています

詳細はホームページまたはお電話から

教育委員会事務局教務部教職員給与・厚生担当
☎ 06-6208-9132（月～金　9:00～17:30）

これからも先生を確保していくために
教員と管理職の働き方改革を進めます

全国的に先生が不足する中で、初任給の引上げやPRなどに取り組んできましたが、大阪市の先生を受験する人も、４年連続で減っています。
学校園が、やりがいをもって、子どもたちのために働き続けられる職場でなければ、そこで働く先生を、今後も確保していくことはできません。

そのため、「教員の働き方満足度日本一」をめざして、先生でなくてもできる仕事をする人を配置する、システムやアプリを活用するなど、さまざまな取組を進めており、残業時間は減ってきていますが、まだまだ十分ではありません。今後も、あらゆる方法で取組を進めていきます。

地域・保護者の皆さまが、子どもの見守り活動をはじめ、学校園に様々なご協力をいただいていることに大変感謝しています。
しかし、新型コロナウイルス感染症の５類感染症への移行後、地域や学校によっては、先生が、休日や夜間にお祭りや地域の行事にたくさん参加しているケースがあります。

大阪市長
横山　英幸

そのような中で、皆さまにお願いがあります。こうした行事への参加について、教員の負担をより軽減できるように各地域と学校園においてお考えいただきたいのです。先生が、先生でなければできない仕事に専念し、そして何より、子ども一人ひとりに向き合い、質の高い教育を提供し続けるために、皆さまのご理解とご協力をどうかよろしくお願いします。

大阪市はなぜ校長・園長・教頭など管理職の働き方改革にも力をいれるのか

管理職は、現場の教員を支え、学校園を運営する重要な役割を担っています。これらは子どもたちの教育の質を高める大切な仕事です。教員が将来、管理職になってもワークライフバランスを実現できる職場でなければ、教員になりたい人を増やすことはできません。

お祭りや行事への参加を工夫していただいた一例

- 子どもたちが参加する場合であっても、学校教育とは直接関連しない行事について、参加の呼びかけを控えていただきました。
- お祭りや行事などで学校施設を利用される場合についても、準備や片付けは運営者側で行っていただけるようになりました。
- 参加する行事については、人数や時間を減らしていただきました。